

令和3年度 居住支援セミナー実施報告書

令和3年7月8日

一般社団法人権利擁護支援センター たけたねっと

日時	令和3年6月25日（金） 14:00～16:00		
会場	竹田市城下町交流プラザ 多目的ホール		
共催	竹田市		
取材	大分合同新聞社・ケーブルテレビ竹田		
参加者	40名	会場参加	22名
		youtube参加	18名

不動産関係	2名	まちづくり会社	2名
物件オーナー	4名	市議会議員	1名
社会福祉協議会	2名	地域おこし協力隊	2名
地域包括支援センター	2名	県土木事務所	4名
福祉関係	2名	県豊肥振興局	1名
大学関係	1名	一般企業	2名
地域連携室	2名	一般参加者	1名
医療関係	1名	市役所関連部署	11名
合 計		40名	

【目的】

今回の居住支援に関する説明会は、3部構成でありそれぞれの演題は以下であった。

第一部 『大分県における住宅セーフティネット制度の取り組みについて』

第二部 『要介護5の母の食べる・寝る・出す ～介護保険の限界～』

第三部 『老後のライフプラン ～人生100年シナリオ』

今回の説明会では、①居住支援事業が全国的に展開されていることとその概要の周知、②自宅で介護をする悲喜こもごもの日常。母への尊厳と介護サービスの活用法、普段から学び合い、つながり合っておくことの大切さの啓発 ③高齢化率が高い竹田で100年シナリオを自分らしく生きるための運用の新常識と知恵 というバラエティーに富んだ内容だった。

【考察】

竹田市は人口2万人を切り、65歳以上の高齢者が47パーセントを超える高齢化社会である。人生100年時代ともいわれており、日本の最先端ともいえる。長く生きることが不便や煩わしさに直結しそうな現代。空き家・介護・お金。普段はなかなかオープンにできないテーマを3本、今回は企画した。

一貫しているのは、地域（まち）の中で楽しみながら暮らすための新しい視点の提案である。人口減に向かう竹田市において、さまざまな生活課題を個人や家族単位ですべて乗り越えていくことは、厳しい。

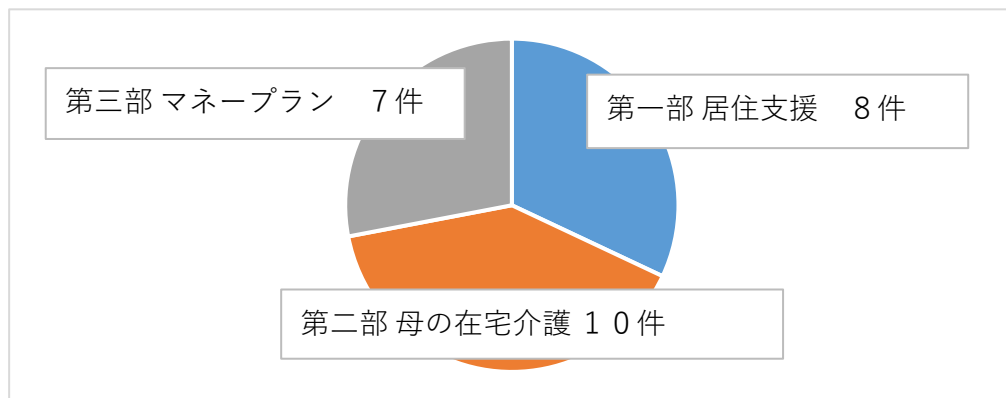
日常から緩やかであたたかい繋がりやシステムを構築していくことで、地域で課題を解決していく。

居住支援がともすれば、住宅確保要配慮者と物件のマッチングのみに捉えられるのでは、と危惧する。

web研修で包僕の奥田代表がお話された『ハウスとホームは違う。共生地域をコーディネート』。
 独立型社会福祉士事務所として、この言葉の持つ重みと可能性をどう模索し、追求し具現化できるのか。
 他機関との連携を密にしながら、全国の先進事例に学ぶことで竹田らしい支援が展開できると考察する。

【アンケート結果】

1. どの演題を楽しみにいらっしゃいましたか？



第一部 居住支援概要	8 件
第二部 居宅介護	10 件
第三部 マネープラン	7 件

2. あなたご自身のお困りがありますか？

居住支援	空き家	1 件
	空き店舗	1 件
	空き地	1 件
	うまく活用できていない	4 件
	修繕が必要	3 件
	費用が心配	2 件
	地域に役立てたい	2 件
介護	誰に相談していいか分からない	2 件
	何をしたらいいか分からない	3 件
	介護疲れ	2 件
	家族間の気持ちのズレ	3 件
	介護費用	2 件
	介護が終わった後の無気力	2 件
	もっとこうすればよかった等の後悔	2 件
お金	ライフプランを考えたことがない	5 件
	漠然としたお金の心配	8 件
	相続	4 件

- ・自分のことではないが、支援している相手のことで参考になればと期待してきた。
- ・今後も協働、協力しながらネットワークを構築したい。（複数回答）
- ・お金の話はなかなか聞く機会がなく、衝撃的だった。（複数回答）
- ・バラエティーに富んだ内容で大変参考になった。（複数回答）



第一部 『大分県における住宅セーフティネット制度の取り組みについて』



第二部 『要介護5の母の食べる・寝る・出す ～介護保険の限界～』



第三部 『老後のライフプラン ～人生100年シナリオ』